

 大阪教育大学  関西大学  近畿大学

大阪教育大学 連合教職大学院

The United Graduate School of Professional Teacher Education

子どもの未来を、
これからの教員を。



新しい時代の教員養成を けん引します

大阪教育大学 学長 岡本 幾子

大阪教育大学は、1874年（明治7年）に教員伝習所として創設されて以来、日本の教育の根幹を支えながら、その発展に貢献してまいりました。とりわけ学校教育の分野における多くの有為な人材の育成を通して、日本の主要な教員養成機関としての役割を果たしてきました。

平成27年4月には、次世代教員リーダーとして資質能力を向上させ、学び続ける教員を養成するため、これまで本学と同様に大阪の教員養成に重要な役割を果たしてきた関西大学及び近畿大学と国立・私立の垣根を越えて連合し、教職大学院を設置しました。

知識基盤社会の到来と情報通信技術の急速な発展、社会・経済のグローバル化や少子高齢化の進展など、社会が急激に変化する中、平成31年4月より多様化し続ける学校教育の課題に即応できる実践力を身に付けた教員を養成することを目的に、大学院段階での教員養成機能を教育学研究科から連合教職実践研究科（連合教職大学院）に移行しました。

1専攻4コースに拡充した連合教職大学院では、学校や地域等との連携のなかで、教育現場を活性化しつつ、自らも成長し続ける高度で柔軟な実践的を備えた教員を養成します。

本学は、令和4年3月に、「令和の日本型学校教育」を担う教員の育成を先導し、教員養成の在り方自体を変革していくためのけん引役として、文部科学大臣から「教員養成フラッグシップ大学」として指定されました。日本の教育課題が縮図化している大阪において、多様な主体との連携により、教育DXとダイバーシティ教育を重点的に促進し、教員養成フラッグシップ大学構想の実現を通じて日本の未来の教育を創造していきます。

本学で学ぶことにより、高度な実践力を修得し、学校現場におけるリーダーとして活躍されることを願っています。

Contents

- 03 連合教職大学院の概要
- 05 連合教職大学院での学び
- 07 コースの概要
- 09 コース紹介
- 13 大阪教育大学連合教職大学院の魅力
- 15 在学院生・修了生からのメッセージ
- 17 教職大学院生の一日
- 21 授業科目一覧
- 23 担当教員一覧
- 25 就職支援／進路状況
- 26 学費・奨学金
- 27 入試情報
- 28 三つのポリシー
- 29 アクセス

教職大学院の目的

教職生活全体における高度かつ実践的な教員養成のための専門職大学院

近年、教員の養成－採用－研修等を通じて、教員が教職生活全体を通じて職能成長を実現する環境づくりが進められており、教職大学院は高度専門職業人養成に特化した大学院として、全国に設置されています。

学部段階の資質能力を基盤に深い教職性と実践的指導力を兼ね備える新任教員を養成

教員養成系大学あるいは一般大学の学部新卒者に、それぞれの特色を生かした資質能力にさらなる教職専門性と学校現場に即応できる実践的指導力を培い、学校の有効な一員となる新任教員を養成します。

学校の組織的課題・子どもの教育課題に応じた教育実践力や指導的役割を発揮する現職教員を養成

多様で複雑化する学校の組織的課題や子どもの教育課題を適切にとらえ、それらの課題解決をめざす確かな教育実践の展開に指導的役割を果たすことができる、学校の中核となる教員を養成します。

現代的な教育課題	
● 新たな教育課程・授業方法の創出	● 子どもの育ちに関わる課題の解決
● 学習指導要領の改訂に応じた教育活動の展開	（いじめ・不登校・児童虐待等）
● ICTを用いた指導法の充実	● 個々の子どもに応じた指導・支援の充実 など
● 「チーム学校」の実現	

求められる教員の資質能力	
● 自律的に学ぶ姿勢や意欲	● 現代的な教育課題に対応する力
● 価値を見つけ出す感性や探究心	● 学校内外の組織や専門家とチームで連携・協働する力
● 知識や経験を有機的に結びつけて構造化する力	● 各自治体の教員育成指標で求められる資質能力 など

養成する人材像	
● 自ら学び続ける教員	● チームで課題解決をめざす教員
● 教職・教科等の高度な専門的知識や技能を有する教員	● 地域の組織や専門家と連携・協働する教員
● 学級経営・生徒指導・教育相談等を適切に実践できる教員	● 学校経営及び教育行政のリーダー

修了要件

専門職学位課程に2年以上在学し、所定の科目を46単位以上修得することを要件としています。

科目名	単位数	内 容
研究科共通科目	18	「教育課程の編成及び実施に関する領域」、「教科等の実践的な指導法に関する領域」、「生徒指導及び教育相談に関する領域」、「学級経営及び学校経営に関する領域」、「学校教育と教員の在り方に関する領域」の5領域の科目と、学校現場における実践的課題を解決する研究開発力養成のための科目として「教育研究方法演習」や、「学校安全と危機管理」などを設定しています。
学校実習科目	10	「基本学校実習Ⅰ・Ⅱ」と「発展課題実習Ⅰ・Ⅱ」（特別支援教育コースについては、「基本学校実習Ⅲ・Ⅳ[特別支援]」と「発展課題実習Ⅲ・Ⅳ[特別支援]」）の計4科目10単位を修得します。
コース科目	10～14	各コースが目標とする資質能力を育成するための科目を設定しています。詳細については、授業科目一覧（スクールリーダーシップコース・援助ニーズ教育実践コース：21ページ、教育実践力コース・特別支援教育コース：22ページ）をご参照ください。
課題研究科目	4	入学時から明確な意図と達成目標を持った研究テーマを設定して、課題解決に向けた実践的探究を進めます。
自由選択科目	0～4	研究科共通科目・コース科目等から、各コースで定める履修基準に応じて単位を修得します。

学位

「教職修士（専門職）」の学位が授与されます。

取得できる免許状

取得しようとする免許状の一種免許状を有していることが必要です。

● 幼稚園教諭専修免許状
● 小学校教諭専修免許状
● 中学校教諭専修免許状
（国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、職業、職業指導、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、宗教）
● 高等学校教諭専修免許状
（国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、家庭、情報、農業、工業、商業、水産、福祉、商船、職業指導、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、宗教）
● 養護教諭専修免許状
● 特別支援教諭専修免許状（※特別支援教育コース所属学生に限る）
（視覚障害者・聴覚障害者・知的障害者・肢体不自由者・病弱者）

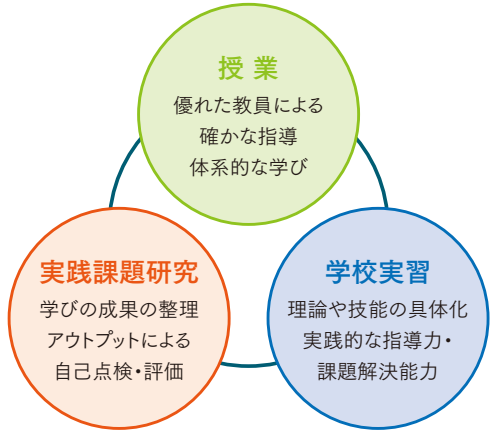
大学院キャンパスと学校現場をフィールドとした学び

理論と実践の往還・融合

自らが設定した課題の解決に向け、授業における理論的な学びと、2年間を通じて実施する学校実習における実践的な学びとの往還を繰り返し、実践課題研究に取り組むことで、教職に求められる実践的指導力を高めていくよう、カリキュラムを構築しています。

指導体制

院生には、主指導教員・副指導教員が割り当てられ、研究者教員と実務家教員、教職科目担当教員と教科専門教員といった、複数の視点で指導できる体制を用意しています。



〔 理論と実践の往還・融合 〕

授業

教職に求められる実践的指導力を向上させるカリキュラム

大阪府・大阪市・堺市の各教育委員会が掲げる教員育成指標と対応させたディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を、各コースで設定しています。つまり、学校現場で求められる理論や実践動向を科目の中で体系的に学び、学校実習等でそれを実践しながら、実践的指導力を高めていける環境があるのです。また、全ての院生が共通に履修する研究科共通科目は、研究者教員と実務家教員のタッグによるチームティーチングにより授業を展開し、理論と実践の往還の一助となります。

すぐれた教員による確かな指導

150名を超える大学教員が全学的な協力体制のもと、大学院生の指導・支援を行います。研究者教員は、それぞれの専門分野の学術研究に関して数多くの業績を有し、中には、学校現場や教育行政との共同プロジェクト等の豊富な経験を有している教員もいます。また、学校や教育行政に長く勤務し、教育課題の解決に尽力してきた実務家教員は、大学院生にとってのよき教職モデルです。これらのすぐれた教員による確かな指導によって、実践力や探究力等を高めていきます。

学校実習

教職大学院における実習は、院生自身が作成した学修計画書に基づき、研究テーマや目的、内容・方法を明確に計画して実施する実習であり、大学院と実習校の往還、理論と実践の往還・融合を実感すると同時に、実践的な課題解決能力を育成することをめざしています。学部卒院生にとっては、学部段階での教育実習と違って、授業の実施だけでなく、学級経営、生徒指導、教育課程編成をはじめ、学校の教育活動全体について総合的に体験し、考察する機会となっています。また、免許状を持った者が、教員の指導の下、一定期間計画的・継続的に学校教育活動に参画するものであり、当該学校における教育活動に寄与することも期待できます。

時 期		科目名	時間数	単位数	実習先
1年次	前期	基本学校実習Ⅰ 基本学校実習Ⅲ(特別支援)	60時間以上	2単位	現職教員院生：原則として勤務する学校や教育委員会等 学部卒院生：入学時に所有する免許種に対応する実習校
	後期	基本学校実習Ⅱ 基本学校実習Ⅳ(特別支援)	60時間以上	2単位	
2年次	前期	発展課題実習Ⅰ 発展課題実習Ⅲ(特別支援)	90時間以上	3単位	※現職教員院生（勤務経験3年以上）においては、定められた手続きにより履修免除を願い出、認められた場合は、1年次前期に行われる「基本学校実習Ⅰ」の履修を免除されます。
	後期	発展課題実習Ⅱ 発展課題実習Ⅳ(特別支援)	90時間以上	3単位	

実践課題研究

2年次で取り組む実践課題研究では、まず1年次での学びの成果を整理することを通じて、実践的な研究課題に対する問題意識とそれに対する取組みをどのように発展させてきたかを省察していきます。そして、それをさらに追究し、どのようなアウトプット(実践課題研究報告書)として仕上げるかに関して、計画を策定し、遂行していきます。その過程において課題解決のプロセスを R-PDCA サイクルに基づいて自己点検・評価するとともに、学校や教育委員会のスタッフ等とのコミュニケーションの中で相対化し、それらを通じて、自らの実践的な研究課題の解決を学校や地域が抱える教育課題の解決とつなぐ意識を高めていきます。

実践課題研究のテーマ例	
現職教員院生	校長に求められる対教職員コミュニケーション・スキル —高等学校でのA校長の実践を通じて—
	学級担任支援における特別支援教育コーディネーターの新たな役割
	組織的な校内研修体制づくりの実践的研究 —学び合い、高め合う教員集団づくりに向けて—
学部卒院生	空間認識力の向上をめざした動的幾何学ソフトウェアの活用
	話す・書くスキルの向上をめざした小学校国語科授業実践 —課題分析を活用して—
	高等学校地理歴史科における記述力向上に関する実践的研究

リフレクション・ミーティング

リフレクション(reflection)の意味は、熟考、内省、省察、再考、回想などです。すなわちリフレクション・ミーティング(RM)とは、過去と現在を見つめ、未来の行動や指針をつくる活動(ふりかえり)のことです。RMには、個別RM、コースRMがあります。特に学校実習科目や課題研究科目では、指導教員と個別に、あるいはコースの院生と教員全体で確認するためのリフレクション・ミーティングの機会を大切にしています。また、3月には、キャンパスや所属を越えた教職大学院での学び・成果の発信・共有を目的として、実践研究成果報告会を行います。

名 称	実施時期	実施内容
個別RM	随時	・大学院主指導教員が担当院生の実習校を訪問し、実習の進捗状況について確認する ・実習テーマによっては、実習校指導責任者や関係の教員とともに振り返りを行う場合もある
コースRM	8月及び2月	・実習課題に応じて、コース内で他の院生との相互交流を行い、それぞれの経験や課題を共有する
実践研究成果報告会	3月	・各コースの代表者による、2年間の実践研究の成果報告を行う



授業：学習指導の実践的展開



コースRMの様子



Voice 現職教員院生の実習

学校実習とお聴きになって、何を連想なさるでしょうか?「教育実習」のようなイメージでしょうか?確かに学部生の頃は、将来、教員となるための実践的指導力を高めるために必要な必修科目でした。加えて、実習校と大学の両方よりご指導をいただき、それまでに学んだ知識や技能を活かし教科の支援にあたり、生活指導などの教科外活動等について学びました。しかしながら、現職院生における「学校実習」は、さらに高次元レベルとなります。勤務校の課題そのものが実践課題研究テーマとなることもあり、現場での実践と大学院での理論を紐づけ考察します。もちろん、平常業務に加えて研究をすることは、容易ではない面もありますが、指導教員の先生方が温かくサポートをしてくださる中で、実践課題研究を通じて、自身の学びを深めながら、勤務校の生徒や先生方が感じておられる課題の解決に向け、ともに打開策を考えることができます。現場で勤務させていただきながら、大学院で学んでいるからこそ気づくことのできる観点や視点があります。自分の中に「解決したい」「もっと学びたい」という気持ちを持ちながら、校種や教職歴にかかわらず、さまざまな方と出逢うチャンスも多く、視野を広げることができることも「学校実習」の魅力のひとつであると思います。



援助ニーズ教育実践力コース(M2) 現職教員院生
森田 琢也さん

天王寺 キャンパス

昼夜間開講

平日の夜間や土曜、夏季休業期間等に授業を履修し、
平日の日中は実習校で（現職教員は在籍校で働きながら）
実践研究を行える昼夜間開講システム



Tennoji Campus

スクールリーダーシップコース

対 象	現職教員等（勤務経験3年以上）（※）
募集人員（目安）	30 名
養成する人材像	●保護者、地域住民等と協働し、学校及び地域の新しい教育課題の解決に向けてリーダーシップを発揮できる教員 ●教員集団をリードし、学校経営における中心的役割を担うことのできる教員

援助ニーズ教育実践コース

対 象	現職教員・学部卒学生等
募集人員（目安）	30 名
養成する人材像	●多様な援助ニーズに対応するための高度な教育的手法を身に付けた教員 ●「チーム学校」の考えに基づき、学校園内・外の関係者と協働して教育実践を展開できる教員

●天王寺キャンパス開講の2コースは、次のような開講です。

6 時 限	7 時 限	
18:00 ～ 19:30	19:40 ～ 21:10	●平日 6 ～ 7 時限 ●土曜 ●集中講義（土曜、夏季休業期間の組み合わせなど）

※「現職教員等」とは、国公私立の幼稚園（幼保連携型・幼稚園型認定こども園を含む）・小学校・中学校・高等学校・義務教育学校・中等教育学校・特別支援学校で現在勤務している常勤の方（任用の期限を付さない常勤講師を含む）又は都道府県もしくは市区町村の教育委員会及び国公立の教育センター等において指導主事として現在勤務している方で、令和 5 年3月31日までに上記「対象」欄の年数の経験を有する方とします。ただし、令和 5 年3月31日以前に退職する予定の方を除きます。

※経験年数は、1 か月未満の場合は 1 か月として計算します。

※休職期間（育児休業・国際派遣等も含む）は、経験年数に算入しません。

柏 原 キャンパス

昼間開講

キャンパスで授業を履修する日と
実習校で学校実習を行う日を使いわけながら
着実に力をつける昼間開講システム



Kashiwara Campus

教育実践力コース

対 象	学部卒学生・現職教員（大学院修学休学制度等の利用）
募集人員（目安）	80 名
養成する人材像	●児童・生徒に即した、実践的で高度な学習指導、学修評価を行える能力を身に付けた教員 ●教員としてのカリキュラム・マネジメントや、教科横断的な視野を持った教科領域の指導、今日的な教育課題に対応した授業開発に、先端的かつ継続的に取り組むことのできる教員

特別支援教育コース

対 象	学部卒学生・現職教員（大学院修学休学制度等の利用）
募集人員（目安）	10 名
養成する人材像	●特別な支援を必要とする子ども一人ひとりのニーズに対応した適切な教育支援を行える高度な能力を身に付けた教員 ●特別支援教育コーディネーターとしての役割を担うことができる教員

●柏原キャンパス開講の2コースは、主に平日1～5時限開講です。

1 時 限	2 時 限	3 時 限	4 時 限	5 時 限
8:50 ～ 10:20	10:35 ～ 12:05	12:55 ～ 14:25	14:40 ～ 16:10	16:25 ～ 17:55

協働力とリーダーシップを育てる

スクールリーダーシップコース

特 徴

コース共通科目では、事例検討を多く用い、スクールリーダーとしての基本的な考え方を獲得します。
プログラム科目には、5つのプログラムが用意されており、各自のキャリアや所属校の課題に即し選択することが可能です。各プログラムは、概論、事例研究、実践の3段階で構成され、それらの履修を通じ専門的かつ多角的に学ぶことができます。
※プログラム科目については、今後その内容や位置づけ、名称について、変更の可能性があります。

履修モデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1 年 次	教育課程編成の今日的課題 生徒指導と教育相談の実践的課題 学校経営と学級経営の理論と実践						カリキュラムマネジメントの理論と実践 学習指導の実践的展開 教育研究方法演習						
	スクールリーダーシップの理論と実践						学校におけるコーディネーション						
	学習開発研究演習（英語）						グローバル時代の教師						
	基本学校実習Ⅰ				コースRM		基本学校実習Ⅱ				コースRM		
2 年 次	人権教育の課題と実践 学校安全と危機管理						教師力と学校力						
	エビデンスベースの学校改革												全体報告会
	子どもの発達を踏まえた生徒指導の組織的展開						校内研修の持続的展開						
	発展課題実習Ⅰ				コースRM		発展課題実習Ⅱ				コースRM		
	実践課題研究Ⅰ						実践課題研究Ⅱ						

コース代表のコメント

スクールリーダーシップコースは、名実ともに「学び続ける教員」をめざすコースです。
現職教員等の学校実習では、勤務先において同僚を巻き込みながら改革へつなげていく実践を通して、「学び続ける教員」としての力量を向上させていきます。
講義科目においては、理論と実践を往還させる講義とともに、参加型の授業形態が頻繁に用いられます。受講生が相互に切磋琢磨しながら、学びを創り上げていきます。私たち教授陣は、その学びを強力にバックアップします。
皆さんにとって、将来にわたりかけがえのない存在となるのは、共に学び合う仲間たちです。多様な校種や地域から、教科専門性や年齢層も異なる現職教員大学院生が集います。在学中はもちろんのこと、修了後も頼りになる仲間が財産となります。
私自身も経験がありますが、勤務をしながら夜間の大学院で学ぶためには、それなりに頑張りが必要です。しかし、その努力は、在学中から様々な形で報われます。皆さんの世界がより一層広がることを感じられるはずです。楽しみながら、明日の教育を創る仲間に加わりませんか？



田村 知子 教授

多様な子どもたちのニーズへ協働的にアプローチする

援助ニーズ教育実践コース

特 徴

教育学や心理学、福祉・医療、特別支援教育、養護教育、就学前教育分野にまたがるクロスカリキュラムを導入し、子どもの複合的で多様な援助ニーズのアセスメントと、それに基づいた教育実践の方法を修得させることをねらいとします。
プログラム科目は4つに分かれ、各分野の学校園現場における協働的援助の実践を学ぶことができます。

履修モデル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 年 次	教育課程編成の今日的課題 生徒指導と教育相談の実践的課題 学校経営と学級経営の理論と実践 子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践						カリキュラムマネジメントの理論と実践 学習指導の実践的展開 教育研究方法演習					
	協働的援助の理論と実践 児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ						社会環境と子どもの心身の理解 障がいや健康課題のある子どもの援助ニーズ					
	基本学校実習Ⅰ				コースRM		基本学校実習Ⅱ				コースRM	
2 年 次	学校安全と危機管理 外国にルーツのある子どもの教育Ⅰ						教師力と学校力 外国にルーツのある子どもの教育Ⅱ					全体報告会
	共生社会をめざした協働的援助 メンタルヘルス課題の理解											
	発展課題実習Ⅰ				コースRM		発展課題実習Ⅱ				コースRM	
	実践課題研究Ⅰ						実践課題研究Ⅱ					

コース代表のコメント

援助ニーズ教育実践コースは、一人ひとりの子どもの援助ニーズをくみ取り、それに応えるための教育実践を展開するコースです。
子どもの抱える課題は多様化しています。子どもの自立と成長を支援するために、教員は自らの専門性を高めるとともに、学校園内外の多様な専門性を持つ方々と連携・協働することが求められています。
本コースでは、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教諭や養護教諭の免許を有するみなさんが、様々な教育課題の解決に向けて学んでいます。また、様々な校種や立場の現職教員と学部卒のみなさんが、「援助ニーズに応える教育実践」について、多様な捉え方とアプローチの学びを深めています。お互いの立場や視点の違いからの気づきを教育実践における連携・協働に活かそうと取り組んでいます。
新しいコンセプトの教職大学院で、実践を振り返り、様々な学問領域の知見を融合させ、「現在と未来を生きる子どもたちの援助ニーズに応える教育実践とは何か」という重要なテーマをともに考えてみませんか。



梅川 康治 特任教授

教育実践力コース

領 域	対応する教科等	領 域	対応する教科等
言語と文化	国語、外国語（英語）	身体と表現	音楽、図画工作・美術、書道、体育・保健体育
個人と社会	家庭、社会・地歴・公民、道徳	教育・心理	—
科学と数学	理科、技術、算数・数学	広領域	教科横断的なテーマや、総合的な学習など

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 年 次	教育課程編成の今日的課題	カリキュラムマネジメントの理論と実践							教育研究方法演習			
	学習指導の実践的展開 学校経営と学級経営の理論と実践 生徒指導と教育相談の実践的課題											
	教育実践の研究手法											
	教材・題材開発研究【言語表現】											
			教材・題材開発研究 【コミュニケーション・コンピテンシー】									
			基本学校実習Ⅰ			コースRM		基本学校実習Ⅱ			コースRM	
2 年 次	学校安全と危機管理 人権教育の課題と実践 協働的プロジェクト演習						カリキュラム・マネジメントの展開	教師力・学力カ・スクールコンプライアンス				
									総合的学習の開発と実践			
			発展課題実習Ⅰ			コースRM		発展課題実習Ⅱ			コースRM	
			実践課題研究Ⅰ					実践課題研究Ⅱ				全体報告会

田中 真秀 准教授

特別支援教育コース

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 年 次	教育課程編成の 今日の課題		カリキュラムマネジメントの 理論と実践						教育研究方法演習			
	学習指導の実践的展開 学校経営と学級経営の理論と実践 生徒指導と教育相談の実践的課題 特別ニーズ教育の理論と実践											
	特別なニーズのある子どもの心理的理解と支援 特別支援教育の現代的課題						特別なニーズのある 子どもの生理と病理		特別支援教育の教育課程と授業論 インクルーシブ教育の理論と実際			
	基本学校実習Ⅲ(特別支援)					コースRM	基本学校実習Ⅳ(特別支援)				コースRM	
2 年 次	学校安全と危機管理								教師力・学校力・スクールコンプライアンス			
	発達障がいのある子どもの理解と支援						特別なニーズのある子どもの臨床					
	発展課題実習Ⅲ(特別支援)					コースRM	発展課題実習Ⅳ(特別支援)				コースRM	
	実践課題研究Ⅰ						実践課題研究Ⅱ					全体報告会

正井 隆晶 特任准教授

院 生 共 通

学校心理士の 資格認定審査に 申請が可能

2020年度より、学校心理士の申請類型に、教職大学院類型が加わり、教職大学院修了者及び修了見込み者の方も学校心理士の資格認定審査に申請することが可能となりました。詳細は、学校心理士認定運営機構のホームページをご確認ください。

仲間と出会える

連合教職大学院には、指導主事や現職教員もいれば、学部卒院生もいます。学校間、校種間、教科間、更には世代を超えた院生同士の多種多様なつながりが生まれます。そのつながりは、校種間連携や教科横断的な視野を広げるだけにとどまらず、在学時はもちろん、修了後においても、お互いを支え合い、学び続ける仲間となります。

課題解決能力が身につく

理論と実践の往還・融合を通して、調査・協働・俯瞰的な視点・分析等、課題を解決する力が身につきます。

専修免許状を取得できる

連合教職大学院では、幼・小・中・高・養護・特別支援（視・聴・知・肢・病）の専修免許状を取得することができます。取得のためには、①取得しようとする専修免許状にかかる一種免許状を有していること、②取得しようとする免許状の課程認定を受けた授業科目を24単位以上修得すること、の2つの条件を満たす必要があります。なお、専修免許状を取得すれば、自治体によっては給与に反映することもあります。

教職修士(専門職)の 学位を取得できる

連合教職大学院に2年以上在籍（長期履修制度を利用した場合は3年）し、所定の科目を46単位以上修得のうえ修了することで、教職修士（専門職）の学位を取得することができます。

2年間で 300時間以上の 学校実習

学校現場での体系的かつ長期の実践経験を、子ども達と関わりながら積み上げることができます。学部卒院生は、学部段階での教育実習とは異なり、授業の実施だけでなく、学級経営、生徒指導、教育課程編成をはじめ、学校の教育活動全体について総合的に体験し、考察することができます。現職教員院生は、授業で学んだ理論を在籍校における組織的かつ長期的な実習を通して検証することが可能です。

大阪教育大学連合 教職大学院の魅力

現 職 教 員 院 生

自らの経験に確かな理論を

これまでの教職経験で培った実践的知見と教職大学院での先進的な教育研究に基づく理論的な知見とを統合させることで、理論に裏付けられた教育実践力を身につけることができます。これにより、自らの実践の優れた点については確かな根拠を持ってより一層伸ばしていくことが可能となり、また課題点についても理論に基づいて具体的に改善していくことが可能となります。

学んだことをすぐ活かせる

協働的な学び、ICTを活用した授業、生徒指導など、教職大学院での学びをすぐ自身の授業や指導に活かすことができます。先進的な研究や理論に基づく教育実践を学校現場で展開していくことによって、児童・生徒のより一層の成長に繋げることができます。

勤務しながら学べる

研究科共通科目（必修）は、すべて7限（19:40～21:10）に開講します。また、修学場所である天王寺キャンパスは交通アクセスがよいため、大阪府外から通っている大学院生が多数います。なお、2年で修了するのが困難な方を対象とした長期履修学生制度を活用し、3年かけて学ぶことが可能です。

在籍校等が抱える 課題解決に挑む

在籍校等の教育課題等を踏まえた実践課題研究テーマを設定し、教職大学院での2年間の学びの中で、同僚との協働や、大学教員が在籍校等を訪問しての助言・指導等、学校・院生・大学教員のチームで、在籍校等が抱える教育課題の解決に挑みます。

実務経験により 学校実習科目が一部免除

勤務経験3年以上の現職教員院生は、定められた手続きにより履修免除を願い出て、認められた場合は、1年次前期に行われる「基本学校実習I」の履修が免除されます。

学 部 卒 院 生

教職に関して より深く勉強できる

連合教職大学院では、その名の通り、教職に関する科目を多数用意しています。学部卒（特に教育学部でない学部）の方は、深い教職専門性を培うことができます。

教員採用試験が 一部免除に

自治体によっては、教職大学院生に対して教員採用試験における試験の一部免除や、教職大学院卒としての学内推薦の制度を利用することができます。

教員採用試験の支援

試験対策の一環として、筆記試験だけでなく、集団討論・面接、模擬授業・場面指導等の対策講座を実施しています。

名簿登載期間の 延長措置が可能

自治体によっては、入学前及び在学中に教員採用試験に合格した場合、申請手続きを行うことで、名簿登載期間の延長措置が可能です。
※名簿登載期間の延長がない自治体でも、採用試験の一部免除が可能な場合があります。

1年を通じて 学校現場と関われる

学校実習の一環として、児童生徒等や教職員と交流し、実習先の様々な教育活動及びその補助に携わるもので、子どもの変化や成長の様子を長期的に捉えることや、組織の同僚との協調性を身に付けること等をねらいとしています。学部での教育実習では体験できない学びと言えます。

仲間と切磋琢磨できる

グループでの学習や討論、実習の振り返りに利用できる協働学習室を備え、様々な学習の形に対応しています。

私は特別支援学校と農芸高等学校の教員を8年間勤め、教職大学院に入学しました。以前から、大学院で学びたいといった気持ちがありましたが、なかなか踏み出すことができませんでした。そんな私の背中を押してくれたのが校長先生を始め多くの同僚の先生方でした。多くの方々のご協力のもと、入学を決意することができました。

学校現場では、様々な経験をすると共に、学校の課題とされることを自身で感じていました。そういった学校現場の課題や経験から、現在この学校においても特別支援教育における課題は多くあり、私は特別支援教育をさらに学びたいと強く感じていました。

また専門である農業教育と特別支援教育をつなぐことは、特別支援教育を必要とする子ども達にとって有効な学びになると考え、そのような研究をしたいと思い特別支援教育コースへの入学を決めました。

入学後は特別支援教育を中心に学び、学校実習では特別支援学校において、農園芸の授業に参加し、教員や生徒達と関わりながら「農業における学習を通して、特別支援学校の生徒たちの学びと力をつける為のカリキュラムづくり」という自身の研究に取り組んでいます。教職大学院

で学んだことを、学校現場に戻った際には有効に活用できるように、自身の学びに励んでいきたいと思っています。

特別支援教育コース(M2)
大阪府立農芸高等学校

上西 大輔 さん

私は、学部生の時代に物理学の専門性を磨きましたが、それをどのようにすれば、うまく生徒へ伝えることができるかが、分かりませんでした。「活動あって学びなし」という言葉があるように、ただ闇雲にグループワークを授業で取り入れるだけでは、生徒の学びに繋がりません。そこで私は、どのような授業が「主体的・対話的で深い学び」に繋がるのかを学ぶために、教職大学院への進学を決めました。

教職大学院での授業は、グループワークを中心に行われます。そこで、校種や専門教科の異なる院生との対話を通して新たな視点を知ることができ、現職教員院生の現場と絡めた意見など多くのことを学ぶことができます。他にも、大阪市立の学校に訪問させて頂き、現場でどのような教育が行われているのかを、学べる貴重な機会もあります。

また学校実習では、教育実践を通し、実習校の担当教諭からご助言を頂き、自分の授業スキルを磨きながら、研究テーマに繋がる授業開発に努めています。

教職大学院での学びは、自分にとって新たな学びの連続です。ぜひとも、教職大学院で学び、自分の目標への糧としてください。

教育実践力コース(M2)
在学院生

原田 貴弘 さん

外国語の指導に関して、小学校では不安感や拒否感を抱く教員の姿が、また、中学校においては小学校外国語科の内容をあまり意識せずに教材研究を進める教員の姿が見受けられることがあります。私も小学校へ外国語科の授業を教えるに行くまではこれらの現状に気づきませんでした。これらは学校現場が抱える大きな課題だと感じます。私はこの気づきから、「小中学校の外国語教育を連携するための手立てについて研究したい」という思いで教職大学院の入学を決めました。

入学後、専門科目以外にも必修として様々な科目を学びました。そこでの学びは大変面白いもので、特に現職の方にとっては授業で納得する場面が多いと思います。私も授業で学ぶ内容が自身の教員経験と重なり、「あの時の自分の行動はこういう視点からも考えられたのでは」など、授業の学びが確かなものとして身につけていく実感を得ることができました。同期のストレートマスターとの交流では、忘れていていた視点についてハッとさせられることもあり、改めて原点に立ち返って学びを深めることができています。

休職の決断は容易ではないと思いますが、だからこそ入学してからの時間は研究に邁進できます。天王寺校舎の授業を受けることも可能です。さらなる高みをめざして、研究への第一歩を踏み出してみませんか。

教育実践力コース(M2)
在学院生

大脇 裕也 さん

私は「研究がしたい」「専門分野をもっと追求したい」というよりも、就職を目の前にして、先生という立場で子どもたちの前に立つことへの不安や自信のなさを少しでも減らし、力をつけ、前向きな気持ちで現場へ出たいという思いから入学を希望しました。

教職大学院では、学校実習として長期にわたって学校現場との関わりを持つことで、現場の先生方の授業づくりや学級経営の工夫、子どもたちとの関わり方や支援の仕方などを学び、効果や変容を確かめることができました。また、その環境のなかで学びたい一つのテーマに向かい、試行錯誤しながら実践研究にも励むことができました。学部生時代では味わうことのできない経験ができ、多くのことを吸収させてもらいました。そして何よりも親身になってくれる先生方や同じ志を持つ仲間たちとの素敵な出会いがありました。今でも私にとって心強い存在です。

私は教職大学院への入学を選択して良かったと思っています。この2年間は自分自身を見つめ直し、改めて「先生として子どもたちと関わり、共に成長していきたい」「前向きにやってみたい」と決心できた貴重な期間となりました。現在、入学を希望されているみなさんの教職大学院生活も有意義で晴れやかなものになることを祈っています。

令和2年度修了
教育実践力コース(修了)
大阪市立田辺小学校

松本 莉奈 さん

在学院生・修了生 からのメッセージ

子どもの実態に合わせた支援への興味や、現状の自分の知識量・技量で現場へ出ることによる不安から、教職大学院への入学を決めました。

私が所属する援助ニーズ教育実践コースは、学部卒院生と現職教員院生がいます。夜間に実施される講義においては、校種や経験年数の違う院生と意見を交流しながら学んでいます。コロナ禍ということもあり、オンライン授業と対面授業の両方を経験しましたが、それぞれの良さがあり、学習形態や個人のニーズに合った多様な学びを学習者として体感しています。

そして、2年間を通して行う学校実習においては、講義での学びを実際の学校現場における子どもや教職員との関わりの中で活かし、自身のこれからの実践へと繋げるために日々奮闘しているところです。また、実習や学校生活で困ったとき、悩んでいるときは、院生同士で助け合ったり、指導教員の先生にすぐ相談したりできる環境があります。

来年度に入学される皆さまと共に学べる日を心待ちにしています。



援助ニーズ教育実践力コース(M2)
在学院生

富田 菜々香 さん

私は以前から機会があれば教職大学院で教育に関して専門的に学んでみたいと思っていました。学校でミドルリーダーとしての役を任されたり、教育センターでの講習が面白かった経験などが進学を考えるきっかけとなり、今しかできないことを、今だからこそできることをやろうと思い入学しました。

現在学んでいて1番楽しいと思うことは、様々なことを“つなぐ・つながる・つなげる”ということです。今までの経験、本で得た知見、講義での学び、院生同士の交流の中での発見、研究会に参加して知り得た実践例など、一つひとつ点だったものが線や面としてつながっていく、つなげることができた瞬間がたまに面白いです。教職大学院の良さの一つは、得た知識を使ってすぐに勤務校で実践できる点です。実践することで自分の理解度を知り、より学びを深められ、また失敗や成功の経験を積むことで自分を高めていくことができます。

現在私は観点別学習状況評価をテーマとして実践研究に取り組んでいます。仕事との両立は大変ですが、大学院の先生方・院生同士のサポートのもと、充実した日々を過ごしています。

迷っておられるなら思い切って飛び込んでみてください。飛び込んだ先の世界に、価値観が揺さぶられるような最高の学び・出会い・体験がたくさんあります！

スクーリーダーシップコース(M2)
在学院生

鈴木 華子 さん



教職10年という節目を迎えるにあたり、自分のキャリアを見つめなおし、2つのことを考えたのが進学のきっかけです。まず、学習指導や生徒指導にあたる際、経験に頼っていたため、もう一度理論を学びたいと思ったこと。もう一点は、コロナ禍の学校で子どもたちに身につけさせたい資質・能力についてもっと考えを深めたいと思ったことです。

入学して以来「大学院はどう?」といろんな人に聞かれますが、「すごく楽しい」の一言に尽きます。なぜなら、院生同士の交流から新たな気づきを得ることができ、自分自身が主体的・対話的な深い学びをしていると実感できるからです。知識がアップグレードされ、講義を重ねるごとに学んだ内容がつながって思考が深まっていくことに面白さを感じます。

提出課題は決して少なくないですが、指導教員の先生方をはじめ献身的なサポートと院生同士の励まし合いにより、頑張ることができています。大学院でのさまざまな学びや出会いから「こんな授業をしてみたい・こんな学校にしていきたい」という目標ができ、「こんな生き方をしたい」と夢や憧れがふくらみました。今後も学び得たことを現場の先生方や子どもたちに還元できるように努力したいと思います。

より多くの先生方にこの良い環境で有意義な楽しい学びを経験してもらいたいと思います。



スクーリーダーシップコース(M2)
在学院生
堺市立大泉小学校(大泉学園)

辻 まりや さん

学習指導要領(平成29年告示)の全面実施に伴い、子どもたちの資質・能力の育成のために、教員の更なる授業力向上が求められています。私はミドルリーダーとして所属校の授業力を組織的に向上させるために、どのように授業研究に取り組んでいけば良いのかを悩んでいる時に、縁あって教職大学院と出会いました。

教職大学院の講義では、常に理論と実践の往還を意識することで実践的指導力を高め、大学院での学びを学校現場に活かすことができました。実践課題研究では、現場の先生方を巻き込んだ校内研究の推進をめざしました。指導教員の先生の丁寧で的確なご指導のおかげで、様々な課題に直面しながらも推進体制を構築し、校内研究の流れを作り出すことができたと考えています。

また、学校の組織的な課題を改善したいと考える志の高い仲間と切磋琢磨することで、悩みを共有しながら、そしてお互いに学び合いながら、高め合うことができました。修了後もそのつながりは途切れることなく、現在でも良い刺激を頂いています。

私は2年間の学びによって、「学び続ける教員」としてのあり方を確かなものにすることができました。自身の実践や研究に行き詰っている先生方や、学校課題の改善に悩みを抱えている先生方にとって、教職大学院での学びは、きっと課題解決の糸口やヒントを与えてくれるはずです。

スクーリーダーシップコース(修了生)
大阪府教育センター

守時 得裕 さん



教職大学院生の一日

援助ニーズ教育実践コース



学修課題

特別支援学級における 主体的・対話的で 深い学びを実現するための 国語の授業実践及び分析

援助ニーズ教育実践コース

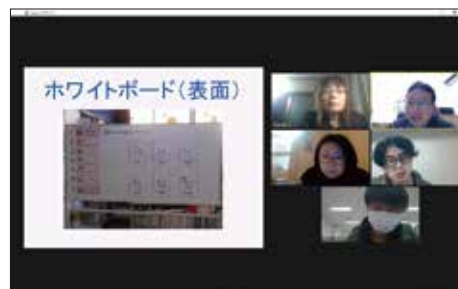
川崎 育臣さんの場合

現職教員院生(和泉市立和気小学校勤務)



※令和2年度作成記事です。

教職大学院の授業で学んだことを勤務校の授業で実践し、その後振り返りをすることによって、さらに理解度を深めます。毎回の教職大学院での学びをすぐに学校現場で実践することができるため、常に学校現場のことを考えながら授業を受け、明日は何を実践しようかと、わくわくしながら授業を受けています。



日中は特別支援学級の担任として、授業を行い、休み時間は子どもたちと一緒に遊ぶなど、普段と変わることなく仕事をしています。

校内の研究テーマ「主体的・対話的で深い学び」と、私の教職大学院での学修課題「特別支援学級における主体的・対話的で深い学びを実現するための国語の授業実践及び分析」が一致していますので、大学院で学んだことを活かして校内の研究にもフィードバックすることができています。

校務分掌では、生活指導・文化情操部で、不登校対応担当をしています。毎月の長期欠席調査では、その月に3日以上欠席した児童について調査し、集計を行っています。各学期には、「社会性測定用尺度」調査を行い、成長を促す指導の視点によるPDCAサイクルに基づいた取組を推進しています。調査を通じて気づくことがたくさんありますので、未然に不登校防止に努めています。

大学院での授業でも「いじめ・不登校・問題行動を示す子どもの援助ニーズ」の講義があり、講義やディスカッションを通して新しい知識やカウンセリングの方法についても学ぶことができ、現場で活かすことができています。

この日の6限は、「社会環境と子どもの心身の理解」。7限は、「学習指導の実践的展開」でした。1回生の後期の授業では、新型コロナウイルス感染症予防のためハイブリッド授業が行われました。ハイブリッド授業は、学籍番号の奇数・偶数により受講学生を2つのグループに分け、授業回毎に交互に「対面授業」が実施されました。「対面授業」では、大学院に登校し授業を受け、「対面授業」にならないグループは、自宅や職場等で同時双方向配信のオンライン授業や事前学習・課題研究等が実施されました。

「社会環境と子どもの心身の理解」では、社会的な環境の変化についてまず概観し、その変化が我が国の子どものどのような影響を与えているのかについて明らかにしていきます。具体的な経済状況や社会状況の変化が子どもの育ちや学校の状況にどのような影響を与えたかについて考察し、こうした課題を子どもの側から把握し、適切な援助者とともに協働しながら、子どもを援助していくための基礎知識を学びます。そして、学校現場で出会った子どもの具体的なケースから、状況を把握し、援助するための援助方法を学びます。

「学習指導の実践的展開」では、児童・生徒に資質・能力を育成するための習得・活用・探究型授業の実践的手法をその理論的背景と共に学んでいきます。受講生がグループを構成し、各グループが研究課題をもち、授業を組み立てていきます。その後、組み立てた授業を実践し、学校現場からの評価を得ることなどの方法を考え、研究課題の特徴を実証的に分析します。最後に各グループの経験が共有化されるように、得られた知見をレポート集にまとめていきます。この一連の流れを通して授業実践手法のレパートリーを広げるとともに、実証的な効果研究の手法を身につけられるようになります。



時間割例

※令和3年度入学生の場合

授業時間

6限	18:00～19:30
7限	19:40～21:10

1
回
生

前期

曜日	6限	7限
月		教育課程編成の今日的課題
火	子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践	協働的援助の理論と実践
水	児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ	生徒指導と教育相談の実践的課題
木		学校経営と学級経営の理論と実践
金		

後期

曜日	6限	7限
月	社会環境と子どもの心身の理解	学習指導の実践的展開
火		教育研究方法演習
水		カリキュラム・マネジメントの理論と実践
木	予防的な関わりと協働的援助	いじめ・不登校・問題行動を示す子どもの援助ニーズ
金		

集中講義

健康教育の理解と実践	障がいや健康課題のある子どもの援助ニーズ	基本学校実習Ⅰ	基本学校実習Ⅱ
------------	----------------------	---------	---------

上記の時間割モデルは令和3年度入学生用カリキュラムによる一例であり、入学後にこのような時間割になることを約束するものではありません。

前期

曜日	6限	7限
月		
火	共生社会をめざした協働的援助	学校安全と危機管理
水		
木	教科内容開発研究(英語)	メンタルヘルス課題の理解
金		実践課題研究Ⅰ(時間は指導教員と相談可能)

後期

曜日	6限	7限
月		
火		
水		教師力・学校力・スクールコンプライアンス
木		
金		実践課題研究Ⅱ(時間は指導教員と相談可能)

集中講義

発展課題実習Ⅰ(3単位)	発展課題実習Ⅱ(3単位)
--------------	--------------

科目区分		修了要件に必要な単位数	本例における取得単位数
研究科 共通科目	必修	16	16
	選択必修	2	4
学校実習科目		10	10
コース 科目	必修	6	6
	選択必修	6	10
自由選択科目		2	2
課題研究科目		4	4
計		46	52

※修了要件に必要な単位数は選択したコースにより、若干の違いがあります。
※各科目の単位は、発展課題実習Ⅰ・Ⅱ(各3単位)を除き、1科目2単位。

教職大学院生の一日

教育実践力コース



学修課題

高等学校生物における 実験・観察の開発 ー植物学者モーリッシュの 実験本を用いてー

教育実践力コース2回生

中村 優太さんの場合

学部卒院生(本学教育学部2021.3卒)



第2・3タームでは、週に2回を基本として学校実習があります。私は実習校である府立高等学校で主に火曜日に金曜日に実習を行いました。学部で行う教育実習とは異なり、授業だけでなく、学級経営や校務分掌も行うことで、学校教育活動全体を学ぶことができる実習です。

第2タームの実習では、前半は授業者の導入方法や言葉かけ、生徒の反応に着目して授業観察を行いました。後半は生物や化学の授業実践をさせていただきました。第3タームの実習では、目的意識を持って毎日少なくとも1回は授業実践をさせていただきました。これらの実習を通しての学びは、実践課題研究を進めていくための貴重な経験になりました。

また、実習校指導責任者の山下先生は大阪教育大学教職大学院の修了生であり、実習校に暖かく迎え入れていただき、日々ご指導頂いています。

「カリキュラム・マネジメントの理論と実践」という授業では、カリキュラム・マネジメントを行う意義や内容を理解し、事例を基に学校教育目標の達成を見据えたカリキュラム・マネジメントについて検討しました。第3タームに開講されていた授業だったため、学校実習と並行してこの講義を受講しました。この授業では、第2タームの「教育課程の今日的課題」という講義でカリキュラムに関する基本原理と課題を理解した上で、カリキュラム・マネジメントについての理論だけでなく、実務家教員から実践について具体的な事例を学ぶ機会もありました。また、総合的な学習(探究)の時間を核とした教科横断的な指導計画の立案やカリキュラム・マネジメントを推進する校内研修のあり方を様々なシンキングツールを活用しながら検討し、グループ発表をしました。「理論と実践」を往還しながら学べる貴重な機会になり、現場に出てからすぐに実践したい内容ばかりでした。

講義以外の時間の過ごし方について紹介します。私は2回生で本格的に取り組む実践課題研究報告に向けて、自身の研究テーマに関連する論文を読んだり、研究計画を立案したりすることを通して、指導教員の先生から指導を受け準備を進めています。

私は大阪教育大学の学校教育教員養成課程からのストレートマスターのため、指導教員の先生が変わりませんでした。研究室にある複雑な実験器具を使用する学部生に、使い方を教えたりすることで私自身、実験についての技能を高めることができています。また、指導教員の先生に実習の報告をしたり、ゼミや学外の植物研究会に参加したりすることで、生物学についての知識をより深めています。

私は、令和4年度教員採用試験で内定を頂きましたが、大学院に在学中のため、実際の勤務は令和5年度からになります。現在、毎週月曜日は講義を入れずに、大阪市立の中学校でサポーターとして活動しています。授業の補助や生徒への声かけを行うことで、学校実習以外の実践の機会を自らで確保しています。学校現場で実際に生徒と関わることで、様々な学びが得られ充実しています。

学校実習のスケジュール【火曜日の例】

8:30～	実習開始	10:45～11:35	3限 授業実践	14:20～15:10	6限 予備実験・実験準備
8:35～ 8:40	SHR	11:45～12:35	4限 授業実践	15:20～16:10	7限 授業観察
8:45～ 9:35	1限 授業観察	12:35～13:20	昼休み実習校指導教員との 振り返り・打ち合わせ	16:10～16:20	SHR
9:45～10:35	2限 担任業務の補助	13:20～14:10	5限 予備実験	16:20～16:45	放課後補習／教材研究／実習ノート
				16:45	実習終了

時間割例

※令和3年度入学生の場合

授業時間	
1限	8:50～10:20
2限	10:35～12:05
3限	12:55～14:25
4限	14:40～16:10
5限	16:25～17:55



1回生

前期第1ターム(4月～6月上旬)

	1限	2限	3限	4限	5限
月	教育実践の研究手法				
火	特別ニーズ教育の理論と実践	子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践	教科内容研究[気象]		
水					
木	学校経営と学級経営の理論と実践	教科内容研究[地質]	生徒指導と教育相談の実践的課題		
金					

集中講義(夏期期間)

アクティブラーニングの展開

前期第2ターム(6月上旬～8月上旬)

	1限	2限	3限	4限	5限
月	教材・題材開発研究[道徳a]		学習指導の実践的展開		
火	基本学校実習I(授業のない曜日を利用して、前期60時間以上の実施)				
水	教育課程編成の今日的展開				
木	基本学校実習I(授業のない曜日を利用して、前期60時間以上の実施)				
金	基本学校実習I(授業のない曜日を利用して、前期60時間以上の実施)				

2回生

前期第1ターム(4月～6月上旬)

	1限	2限	3限	4限	5限
月					
火	教材・題材開発研究[道徳a]	授業研究演習[理科／中高]			
水		特別活動の展開	実践課題研究I		
木		人権教育の課題と実践	協働的プロジェクト演習		
金	教科内容研究[動物発生]	学校安全と危機管理			

前期第2ターム(6月上旬～8月上旬)

	1限	2限	3限	4限	5限
月					
火	発展課題実習I(授業のない曜日を利用して、前期90時間以上の実施)				
水				実践課題研究I	
木					
金	発展課題実習I(授業のない曜日を利用して、前期90時間以上の実施)				

後期第3ターム(10月～12月上旬)

	1限	2限	3限	4限	5限
月					
火	基本学校実習II(授業のない曜日を利用して、前期60時間以上の実施)				
水					
木			カリキュラム・マネジメントの理論と実践		
金	基本学校実習II(授業のない曜日を利用して、前期60時間以上の実施)				

後期第3ターム(10月～12月上旬)

	1限	2限	3限	4限	5限
月					
火	発展課題実習II(授業のない曜日を利用して、後期90時間以上の実施)				
水				実践課題研究II	
木	教師力・学校力・スクールコンプライアンス	カリキュラム・マネジメントの展開[科学と数学]			
金	発展課題実習II(授業のない曜日を利用して、後期90時間以上の実施)				

後期第4ターム(12月上旬～2月上旬)

	1限	2限	3限	4限	5限
月					
火		教材・題材開発研究[生命・地球]	教材・題材開発研究[探究的な学習の指導]		
水	教育研究方法演習				
木		カリキュラムデザイン演習(科学と数学)		教科内容研究[化学]	
金		教材・題材開発研究[エネルギー・粒子]			

後期第4ターム(12月上旬～2月上旬)

	1限	2限	3限	4限	5限
月					
火	総合的学習の開発と実践				
水				実践課題研究II	
木		教科内容研究[動物系統]			
金					

科目区分		修了要件に必要な単位数	本例における取得単位数	
			必修	選択必修
研究科 共通科目	必修	16	16	
	選択必修	2	2	
学校実習科目		10	10	
コース 科目	必修	4	4	
	選択必修	6	6	
自由選択科目		4	11	
課題研究科目		4	4	
計		46	53	

上記の時間割モデルは2021年度入学生用カリキュラムによる一例であり、入学後にこのような時間割になることを約束するものではありません。

※1 学部授業の履修は、修業補完(専門知識向上のための基礎的知識習得等のため)自らの意志で履修申請をする任意のもの。教職大学院の修了要件に含まれない。

研究科共通科目

科目区分	授業科目の名称	科目区分	授業科目の名称
教育課程の編成及び 実施に関する領域	教育課程編成の今日的課題	現代的教育科目	教育研究方法演習
	カリキュラム・マネジメントの理論と実践		学校安全と危機管理
教科等の実践的な 指導法に関する領域	学習指導の実践的展開		人権教育の課題と実践
	生徒指導及び 教育相談に関する領域		生徒指導と教育相談の実践的課題
学級経営及び 学校経営に関する領域			学校経営と学級経営の理論と実践
学校教育と教員の 在り方に関する領域	教師力・学校力・スクールコンプライアンス		社会的包摂のための諸施設に関する実践的探究
			特別ニーズ教育の理論と実践
			外国にルーツのある子どもの教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
			海外の学校改革に学ぶ

学校実習科目

授業科目の名称			
基本学校実習Ⅰ	基本学校実習Ⅲ(特別支援)	発展課題実習Ⅰ	発展課題実習Ⅲ(特別支援)
基本学校実習Ⅱ	基本学校実習Ⅳ(特別支援)	発展課題実習Ⅱ	発展課題実習Ⅳ(特別支援)

スクールリーダーシップコース科目

科目区分		授業科目の名称		
コース共通科目		スクールリーダーシップの理論と実践	エビデンスベースの学校改革	
プログラム科目	管理職 プログラム	スクールリーダーのマネジメント	グローバルスクール プログラム	グローバル時代の教師
		学校組織開発		グローバルリテラシーの育成
		チーム学校の実践的展開		グローバルプログラムの開発
	実践的リーダー プログラム	学校におけるコーディネーション	メディア・ 情報リテラシー 教育プログラム	授業におけるICT活用の理論と実際
		子どもの発達を踏まえた生徒指導の組織的展開		メディア・情報リテラシー教育の 実践的展開
		校内研修の持続的発展		メディア・情報教育の企画・運営
	教育委員会 指導主事 プログラム	学校に対するコンサルテーション		
		行政研修の体系と実践		
		学校支援のための施策展開		
※ プログラム科目については、今後その内容や位置づけ、 名称について、変更の可能性があります。				

援助ニーズ教育実践コース科目

科目区分		授業科目の名称			
コース共通科目		協働的援助の理論と実践	社会環境と子どもの心身の理解		児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ
プログラム科目	いじめ・不登校・ 問題行動 対応プログラム	いじめ・不登校・問題行動を示す子どもの援助ニーズ		養護 プログラム	養護実践の理論と方法
		学校危機における援助ニーズ			子どもの疾病・傷害と援助ニーズ
		予防的な関わりと協働的援助			子どもの心身の健康における予防的な関わりと協働的援助
	子どもの障がい・ 健康課題 対応プログラム	障がいや健康課題のある子どもの援助ニーズ		就学前教育 プログラム	就学前の子どもの援助のための政策・システム
		メンタルヘルス課題の理解			就学前の援助ニーズへの多様な支援
		共生社会をめざした協働的援助			就学前教育と福祉の協働

天王寺キャンパス開講 教科関係科目

授業科目の名称	
学習開発研究 〔国語〕/〔算数〕/〔音楽〕/〔図画工作〕/〔体育〕	教科内容開発研究 〔英語〕/〔社会〕/〔理科Ⅰ〕/〔理科Ⅱ〕/〔理科Ⅲ〕/〔音楽〕
学習開発研究演習 〔国語〕/〔英語〕/〔算数〕/〔音楽〕/〔図画工作〕/〔体育〕	教科内容開発研究演習 〔英語〕/〔社会〕/〔理科Ⅰ〕/〔理科Ⅱ〕/〔理科Ⅲ〕/〔音楽〕

教育実践力コース科目

科目区分	授業科目の名称		
コース共通科目	教育実践の研究手法	総合的学習の開発と実践	海外他地域教育実践演習Ⅰ
	協働的プロジェクト演習	特別活動の展開	海外他地域教育実践演習Ⅱ
	カリキュラム・マネジメントの展開	道德教育の教材開発演習	アクティブラーニングの展開
選択必修科目	A群	カリキュラムデザイン演習 (言語と文化)/(個人と社会)/(科学と数学)/(身体と表現)/(教育・心理)	
	B群	授業研究演習 〔国語／中高〕/〔英語／中高〕/〔家庭科／中高〕/〔社会a／中高〕/〔社会b／中高〕/〔道德〕/〔理科／中高〕/〔技術〕 〔数学／中高〕/〔音楽／中高〕/〔美術／中高〕/〔書道／中高〕/〔保健体育／中高〕/〔教育・心理〕/〔小学校全教科〕	
	C群	教材・題材開発研究 〔文章理解〕/〔言語表現〕/〔国語／小中〕/〔コミュニケーション・コンピテンシー〕/ 〔英語／論理・表現〕/〔小学校英語〕/〔英語コミュニケーション〕/ 〔家庭／中高〕/〔家庭／小中〕/〔いのち教育〕/〔哲学〕/〔倫理〕/〔社会学a〕/〔社会学b〕/〔法と社会〕/〔歴史a〕/〔歴史b〕/ 〔防災安全〕/〔地誌〕/〔地図〕/〔道德a〕/〔道德b〕/〔エネルギー・粒子〕/〔生命・地球〕/〔小学校理科〕/ 〔技術・材料と加工〕/〔技術・エネルギー変換〕/〔技術・情報〕/〔技術・生物育成〕/〔技術・統合領域〕/ 〔解析・確率〕/〔代数・幾何〕/〔算数・数学／小中〕/〔数学／中高〕/〔応用数学〕/〔作曲〕/〔指揮〕/〔声楽〕/〔合唱〕/ 〔美術鑑賞〕/〔書鑑賞〕/〔芸術と異文化交流1〕/〔芸術と異文化交流2〕/〔映像・メディア教育〕/〔デザイン〕/〔工芸〕/ 〔剣道〕/〔柔道〕/〔球技〕/〔器械運動〕/〔保健学習〕/〔健康・体力〕/〔体育基礎論〕/ 〔探究的な学習の指導〕/〔進路指導・キャリア教育〕/〔心理学〕/〔教育と想像力〕	
高度理数教育科目		教科内容研究 〔実験物理〕/〔化学〕/〔植物進化〕/〔動物系統〕/〔動物発生〕/〔気象〕/〔天文〕/〔地質〕/〔木材加工〕/ 〔金属加工〕/〔電気〕/〔情報〕/〔栽培〕/〔代数・幾何〕/〔解析・確率〕/〔応用数学〕/〔数学教育〕	

特別支援教育コース科目

授業科目の名称		
インクルーシブ教育の理論と実際	特別なニーズのある子どもの臨床	特別支援教育の教育課程と授業論
特別支援教育コーディネーター論	発達障がいのある子どもの理解と支援	教育相談支援の理論と実際
特別なニーズのある子どもの心理学的理解と支援	特別支援教育の現代的課題	
特別なニーズのある子どもの生理と病理	発達支援教育実践論	

課題研究科目

授業科目の名称
実践課題研究Ⅰ
実践課題研究Ⅱ

コースカリキュラム
についての
詳細はコチラ



スクールリーダーシップコース			
指導分野／氏 名	指導分野／氏 名	指導分野／氏 名	指導分野／氏 名
学校心理学、生徒指導、教育相談 家 近 早苗	教育工学 森 田 英 嗣	国語教育 田 中 俊 弥	英語教育 小 林 翔
学校経営、教育方法学、教師教育 陸奥田維彦	教師教育、学校経営、グローバル教育 田 中 満 公 子	理科教育（物理） 種 村 雅 子	体育・保健体育科教育 橋 元 真 央
教育方法学、教師教育 木 原 俊 行	教師教育、生徒指導、学級づくり 餅 木 哲 郎	理科教育（生物） 出 野 卓 也	算数・数学教育 富 永 雅
教育方法学 （カリキュラム・マネジメントなど）、 教師教育、学校経営 田 村 知 子	教師教育 長 谷 川 和 弘	理科教育（地学） 廣 木 義 久	幼児造形・図画工作教育 松 井 祐
教育工学、教師教育、メディア教育 寺 嶋 浩 介	教師教育、人権教育、学校安全 佐 々 木 靖	社会科教育（経済） 裴 光 雄	音楽教育 吉 野 秀 幸
	教育学 芦 田 祐 佳		

援助ニーズ教育実践コース			
指導分野／氏 名	指導分野／氏 名	指導分野／氏 名	指導分野／氏 名
学校心理学、カウンセリング心理学 水 野 治 久	教育相談 柿 慶 子	発達心理学、認知心理学 柳 岡 開 地	養護教育（臨床医科学） 平 田 久 美 子
養護学、学校心理学、健康教育学 平 井 美 幸	特別支援教育、応用行動分析学、 教育相談 梅 川 康 治	応用行動分析学、 ポジティブ行動支援、発達障がい支援 野 田 航	養護教育（学校保健学） 大 道 乃 里 江
特別支援教育、応用行動分析学、 ポジティブ行動支援 庭 山 和 貴	発達心理学、教育心理学 高 橋 登	就学前教育、教育心理学 戸 田 有 一	養護教育（学校看護） 橋 弥 あ か ね
教師教育、 特別なニーズのある 児童生徒への支援 岡 田 和 子	小 松 孝 至 学校臨床心理学 牧 郁 子	就学前教育 中 橋 美 穂	

教育実践力コース			
領域	指導分野／氏 名	領域	指導分野／氏 名
言語と文化	国語教育（教科教育） 小 路 口 真 理 美	個人と社会	家庭科教育（教科教育） 大 本 久 美 子
	住 田 勝		家庭科教育 （教科教育、生活経営）、 広領域 鈴 木 真 由 子
	国語教育（教科教育）、 広領域 土 山 和 久		家庭科教育（食物） 井 奥 加 奈
	国語教育（国語学） 井 上 博 文		中 田 忍
	国語教育（古典文学） 堀 淳 一		家庭科教育（被服） 山 田 由 佳 子
	国語教育 （近現代文学、児童文学） 成 實 朋 子		家庭科教育（保育） 小 崎 恭 弘
	英語教育（教科教育） 加 賀 田 哲 也		教師教育、家庭科教育 （教科教育）、広領域 松 永 尚 子
	篠 崎 文 哉		社会科教育（教科教育） 飯 島 敏 文
	箱 崎 雄 子		社会科教育（哲学） 松 本 啓 二 朗
	王 林 鋒		社会科教育（倫理学） 倉 本 香
	英語教育（英語学） 寺 田 寛		社会科教育（社会学） （社会学、地域研究） 小 林 和 美
	英語教育 （リーディング・リスニング） 橋 本 健 一		社会科教育 （哲学、いのち教育） 岩 田 文 昭
	教師教育、英語教育、広領域 池 嶋 伸 晃		社会科教育（哲学） 松 本 啓 二 朗
			社会科教育（倫理学） 倉 本 香
			道徳教育 金 光 靖 樹
			社会科教育（地理） 水 野 恵 司
			社会科教育（自然地理） 山 田 周 二
			社会科教育（社会学） （社会学、地域研究） 小 林 和 美
			社会科教育 （哲学、いのち教育） 岩 田 文 昭
			社会科教育（哲学） 松 本 啓 二 朗
			社会科教育（倫理学） 倉 本 香
			道徳教育 金 光 靖 樹
			社会科教育（地理） 水 野 恵 司
			社会科教育（自然地理） 山 田 周 二

教育実践力コース			
領域	指導分野／氏 名	領域	指導分野／氏 名
科学と数学	技術教育（金属加工） 成 田 一 人	身体と表現	音楽教育（教科教育） 兼 平 佳 枝
	算数・数学教育（教科教育） 柳 本 朋 子		体育・保健体育科教育 （教科教育）、広領域 澤 田 和 夫
	東 尾 晃 世		音楽教育（音楽） 浦 田 恵 子
	算数・数学教育 （教科教育、応用数学） 瀬 尾 祐 貴		音楽教育（作曲） 猿 谷 紀 郎
	算数・数学教育（解析学） 岡 安 類		図画工作・美術教育 （教科教育）、広領域 佐 藤 賢 司
	算数・数学教育（確率論） 貞 末 岳		図画工作・美術教育 （教科教育、絵画） 渡 邊 美 香
	算数・数学教育（代数学） 馬 場 良 始		図画工作・美術教育（彫刻） 加 藤 可 奈 衛
			図画工作・美術教育（工芸） 谷 村 さ く ら
			図画工作・美術教育 （造形芸術） 高 間 由 香 里
			書道教育（書道） 池 田 利 広
			瀬 川 賢 一
			出 野 文 莉
			体育・保健体育科教育 （教科教育） 赤 松 喜 久
			体育・保健体育科教育 （教科教育）、広領域 井 上 功 一
			体育・保健体育科教育 （体育学、剣道） 太 田 順 康
			体育・保健体育科教育 （体育哲学） 林 洋 輔
			体育・保健体育科教育 （運動学、柔道） 石 川 美 久
			体育・保健体育科教育 （運動学、器械運動） 古 和 悟
			体育・保健体育科教育 （体育生理学） 鉄 口 宗 弘
			体育・保健体育科教育 （学校保健学） 小 川 剛 司
			教育学（教育哲学） 瀬 戸 口 昌 也
			教育学（教育方法学） 八 田 幸 恵
			教育学（教育社会学） 福 田 敦 志
			教育学（教育社会学） 高 橋 一 郎
			教育学（学校経営学） 白 井 智 美
			心理学（認知科学） 田 中 真 秀
			心理学（行動分析） 渡 邊 創 太
			心理学（学校臨床心理学） 大 河 内 浩 人
			音楽表現 （ピアノ演奏法・伴奏法） 加 藤 あ や 子
			教師教育、広領域 南 野 起 一

特別支援教育コース			
指導分野／氏 名	指導分野／氏 名	指導分野／氏 名	指導分野／氏 名
障がい児心理（視覚障がい） 山 本 利 和	障がい児教育（聴覚障がい） 湯 浅 哲 也	障がい児教育（肢体不自由、発達障がい） 早 野 真 美	障がい児教育（視覚障がい） 正 井 隆 晶
障がい児教育（聴覚障がい） 井 坂 行 男	障がい児心理（聴覚障がい、発達障がい） 西 山 健	障がい児臨床（肢体不自由） 大 内 田 裕	教師教育、障がい児教育、広領域 岩 崎 弘
障がい児教育（病弱） 富 永 光 昭	障がい児心理（病弱） 平 賀 健 太 郎	障がい児教育（知的障がい） 今 枝 史 雄	

教員紹介
についての
詳細はコチラ



◆ 科目等履修生制度

正規の院生の他に、連合教職大学院の正規の授業を聴講して単位を修得する制度です。1年間に8単位まで履修することができます。教員免許状の取得に必要な科目の履修や特定のテーマについて専門的に学びたい場合にご利用ください。また、本制度により修得した単位は、正規院生として入学した際、既修得単位として認められます。

◆ 履修証明プログラム

「履修証明プログラム」とは、社会人等の学生以外の者を対象とした教育プログラムで、修了者には学校教育法の規定に基づく履修証明書が交付されます。

連合教職大学院では、学校現場のニーズや教育課題に対応し、これからのスクールリーダーとして求められる資質や力量

を強化することを目的として、当研究科が開設する授業科目により履修証明プログラムを編成・開設しております。

履修証明プログラムの履修生として入学が許可されると、科目等履修生としての身分を有することになり、修得した単位は科目等履修生として修得したものとして取扱います。

◆ 授業公開

連合教職大学院では、年間を通じて授業を公開しています。連合教職大学院での学びをぜひ一度体験してしてください。

また、授業公開後に、教員・現役院生・事務担当者が、皆様の

疑問にお答えする機会として、「授業公開強化WEEK」を開催予定です。

詳細は連合教職大学院ウェブページにてご確認ください。



就職支援



キャリア支援センターによる教員採用試験の充実したサポート体制を整えています。

Support
①

筆記試験対策講座

筆記試験対策講座を講義形式で実施

Support
②

面接試験対策講座

面接試験に必要なノウハウ・テクニックを身に付けることが可能

Support
③

教育委員会による
採用説明会

各教育委員会関係者が大学で採用説明会を実施
試験の詳細や変更点を聞くことが可能

Support
④

私立学校教員採用説明会

私立学校人事担当者が本学で説明会を実施
各学校の採用予定や特色を聞くことが可能

Support
⑤

実技・面接対策講座

水泳・音楽・器械運動など実技試験、集団討論・面接、模擬授業・場面指導の対策講座を実施

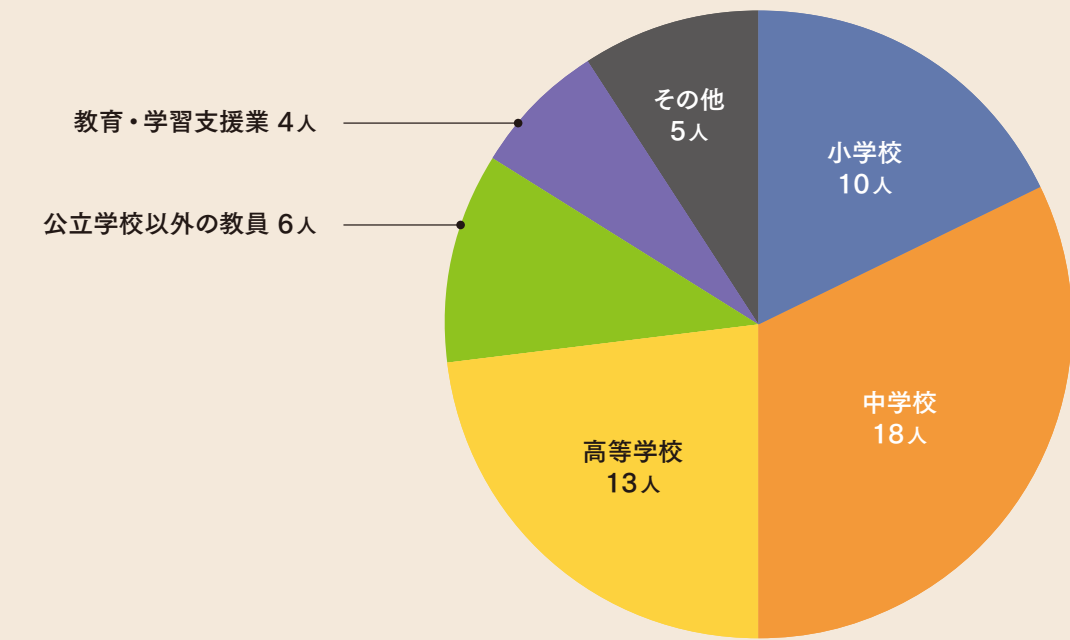
Support
⑥

専門アドバイザーによる
相談

専門アドバイザーによる教員採用試験相談を実施

進路状況

令和3年度修了者の就職状況（56人）※現職教員として在学したものを除く



教員採用試験の採用候補者名簿掲載期間の延長について（大阪市・堺市）

大阪市の教員採用試験で校種「小学校」及び「中学校」の第2次選考で合格と判定された人が、教職大学院に進（在）学し、教職大学院の専門職学位課程修了後の採用を希望する場合は、採用候補者名簿掲載期間を最長2年間延長することができます。堺市の教員採用試験でも同様の制度があります。
※詳細については、大阪市あるいは堺市の教員採用試験の要項をご確認ください。

学費・奨学金



入学科・授業料

令和4年度入学	入学科	授業料（年額）
大学院	282,000円	535,800円
大学院（長期履修学生制度の適用者）	282,000円	357,200円

上記金額は、令和4年度入学者の金額であり、令和5年度入学者については、変更される場合があります。

長期履修学生制度

標準修業年限（2年）で修了することが困難な方を対象に、修業年限を延長することにより計画的に教育課程を履修することができ、かつ、その間の授業料の年額の負担を軽減することができます。

長期履修学生としての申請に基づき審査を行い、許可された場合修業年限を3年とします。修学状況等の変動により、標準修業年限への短縮や、入学後（在学中）の長期履修の申請も可能ですが、この場合、1年次の所定期日までに申請を行い、翌年度からの適用となります。
なお、本制度が適用された方は、留学など長期にわたって本学大学院を離れた場所での修学ができない場合があります。

〈申請資格〉

申請資格を有する方は、次のいずれかに該当する方です。

- ① 職業を有する方
- ② 育児、介護等の事情を有する方
- ③ その他研究科長が認めた方

〈授業料（年額）〉

大学が定めた
授業料年額

 ×

標準修業年限
（2年）

 ÷

最長履修期間
（3年）

専門実践教育訓練給付金

連合教職大学院では、以下のコースについて、厚生労働大臣より教育訓練給付金制度の専門実践教育訓練講座に指定されています。これにより、支給対象者は所定の手続きを行うことで、専門実践教育訓練給付金（入学金＋授業料の半額程度）の支給を受けることができます。
※本制度は、国立・私立学校の現職教員等が対象となる可能性があります。
※ただし、長期履修制度を利用する場合、専門実践教育訓練給付金の申請はできません。
※制度の詳細については、厚生労働省のウェブサイトをご確認ください。



授業料等免除制度

一般選考	経済的理由により入学科・授業料の納付が困難であり、かつ、成績優秀と認められる方を対象に選考のうえ、入学科・授業料の全額または半額が免除あるいは徴収が猶予されます。
特別入学科免除	本学大学院へ入学する方のうち、公立学校教員採用試験に合格し、かつ教育委員会から採用猶予等を許可された方を対象に選考のうえ、入学科の全額又は半額が免除あるいは徴収が猶予されます。
大学院における特別授業料免除	本学大学院に在学中で、学業成績等が優秀であると認められる方を対象に選考のうえ、授業料の半額が免除あるいは徴収が猶予されます。

奨学金制度

学業成績が優秀で、経済的理由により学資の支弁が困難の方には《日本学生支援機構奨学金》または《一般奨学金》の制度があります。一般奨学金には、大きく分けて地方公共団体の奨学金と民間育英団体の奨学金とがあります。

（参考）令和4年度入学者 日本学生支援機構奨学金の貸与月額例

奨学金の種類	貸与月額
第一種奨学金（無利子）	50,000円・88,000円のいずれかより選択
第二種奨学金（有利子）	50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円のいずれかより選択

上記金額は、令和4年度入学者の金額であり、令和5年度入学者については、変更される可能性があります。
第一種奨学金（無利子）については、「特に優れた業績による返還免除制度」があります。

令和5年度入試日程

	出願期間	入試日	合格発表
1次募集	令和4年 7月25日(月)～ 8月4日(木)	令和4年 9月 3日(土)	令和4年 9月 9日(金)
2次募集	令和4年 10月24日(月)～ 11月4日(金)	令和4年 11月27日(日)	令和4年 12月 2日(金)
3次募集	令和4年 12月22日(木)～令和5年 1月5日(木)	令和5年 2月 5日(日)	令和5年 2月10日(金)

※上記入学試験で定員に満たない場合は4次募集[令和5年3月4日(土)]を実施する場合があります。

選抜方法

入学者の選抜は、小論文、口述試験、学修計画書及び成績証明書を総合して行います。

◎教育委員会または連合構成大学(大阪教育大学、関西大学、近畿大学)の推薦による受験者は、課題レポートの提出により小論文の受験を代替することができます。課題レポートの内容については、大学ウェブページをご確認ください。

入学検定料の免除について

教職課程をもつ大学(大阪教育大学、関西大学、近畿大学を除く)の卒業見込者で、出願資格を満たしており、学力成績が優秀で、本学大学院のアドミッション・ポリシーに合致しているとして大学長(又は学部長)に推薦された方には入学検定料を免除します(各学部2名以内)。詳細については、募集要項をご確認ください。

入試説明会

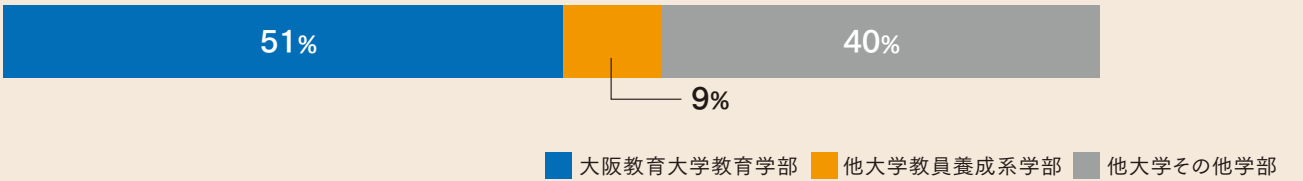
オンラインで全体説明やコース別説明を行います。詳細は大学ウェブページに掲載します。

お気軽に参加ください。

令和4年7月3日(日)、令和4年9月11日(日)、令和4年11月3日(木・祝)

学部卒院生の出身大学・学部(令和2年度～4年度入学者)

入学者の出身大学・学部は、教員養成系大学・学部に限らず、理工学部や文学部、外国語学部など多様です。



三つのポリシー

ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

所定の単位を修得し、教職に関する実践的知識・技能を拡充するための省察や教育実践研究の方法論、同僚や他の教育関係者との協力や協働、学校における組織的活動の視点と方法を獲得するとともに、学校教育の制度や仕組み、教育課程、授業や教材、子どもの心理や発達と生活及びその多様性等に関する高度な専門的知識と実践的指導力を統合的に有すると認められた者に学位を授与します。

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

学校教育の全体像を俯瞰できるような幅広い実践力や課題解決力や応用力を培い、教職に関する高度な専門的知識と実践的指導力を統合的に養成するため、カリキュラムは以下の科目で編成・実施します。

- ①高度な専門性を有する教員を養成するための基礎的素養を修得する研究科共通科目
- ②変化する教育環境に対応するために、様々な教育のあり方を俯瞰的な視点で把握するための体験的基盤を確立する学校実習科目
- ③各コースの特徴を踏まえ、その特徴を伸ばすことを目的とするコース科目
- ④自ら学校実践の現場における課題を設定し、研究科共通科目、コース科目、学校実習科目での学びと関連させながら学びを進め、最終的に実践課題研究報告書にまとめることを目的とする課題研究科目

- ①及び③の実施については、主体的・対話的で深い学びを提供する。具体的には、講義に加えて、グループワーク、発表、討論等の活動を取り入れる。さらに、必要に応じて、教職経験を活かした活動を導入する。②及び④に関しては、調査・計画・実施・評価及び改善のサイクルを繰り返すこと、それらの過程における同僚等とのコミュニケーションや協働を重視する。
- また、成績評価については、試験・レポートのほか、グループワーク、発表、討論等の活動も重視する。

アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

1. 基本理念・目標
大学院連合教職実践研究科は、教育委員会や学校現場との密接な連携の下での教員養成や現職教員教育を通じて、教員志望学生や現職教員学生に学校現場での課題に即応できる実践的知識・技能を拡充させるための視点と方法を獲得させ、もって学校における高度の専門的な能力及び優れた資質を有する専門職としての人材の育成をめざしています。
2. 求める学生像
 - ・学校や地域が抱える教育課題の解決において指導的・中核的な役割を果たすために求められる高度で優れた実践力の獲得をめざす現職教員及び教育委員会関係者
 - ・新しい学校づくりの担い手として自ら学び続けることで実践的指導力の獲得をめざす人
3. 入学者選抜の基本方針
基本理念・目標等にふさわしい学生を受け入れるために、次の大学院入学者選抜を実施します。大学院入学者選抜では、「小論文」・「口述試験」・「学修計画書」を課します。
 - ・「小論文」では、教職に必要とされる読解力、思考力、文章表現力を特に評価します。
 - ・「口述試験」において
学部卒学生等では、教員として学び続ける意欲、教職に関わる実践的な知識・技法、大学院での学修計画を特に評価します。
現職教員等では、教員として学び続ける意欲を持ち、自らの教員としてのキャリアと学修計画を関連づける思考力、判断力、表現力を特に評価します。
 - ・「学修計画書」において
学部卒学生等では、学部での学修を踏まえ、教員として自らが身につけるべき資質・能力を明確にし、それを学校等における教育課題と関連づけた具体的な学修計画を特に評価します。
現職教員等では、所属する組織の課題を把握し、その解決のために教員として自らが高めるべき資質・能力を明確にしている学修計画を特に評価します。
4. 入学前に学習しておくことが期待される内容
(学部卒学生等)・大学卒業レベルと同等の基礎学力
 - ・教職への基本的な知識・技能
(現職教員等)・教育全体や所属する組織の課題を理解し、課題解決をする力
 - ・組織の一員として協働して取り組む力
 - ・子ども一人ひとりを理解し、授業づくり、集団づくりを指導する力

Access

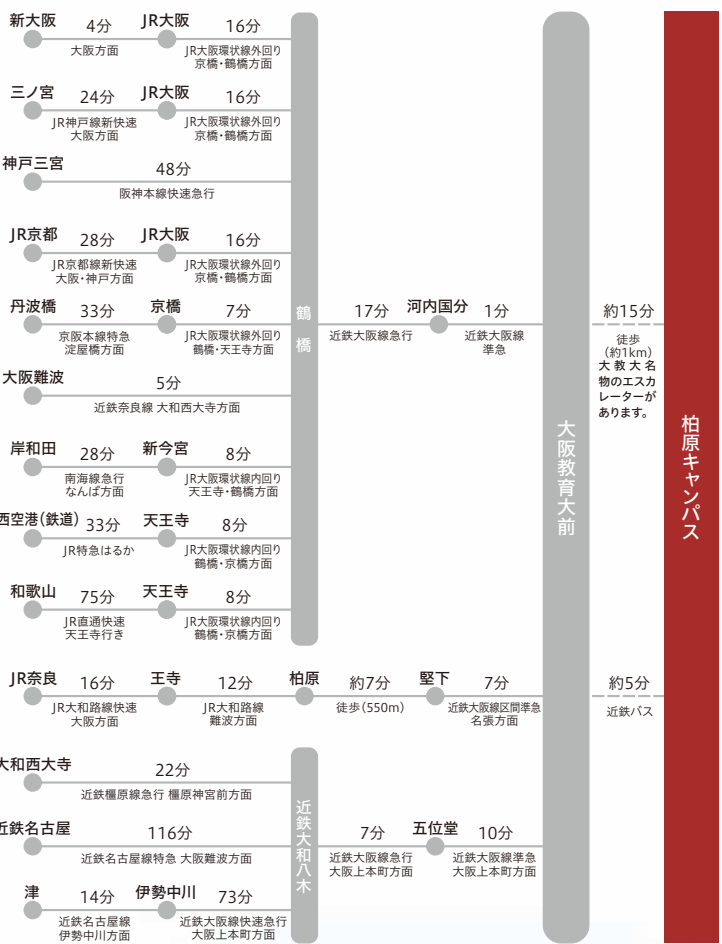


※このアクセスマップはすべての路線が記載されているものではありません。



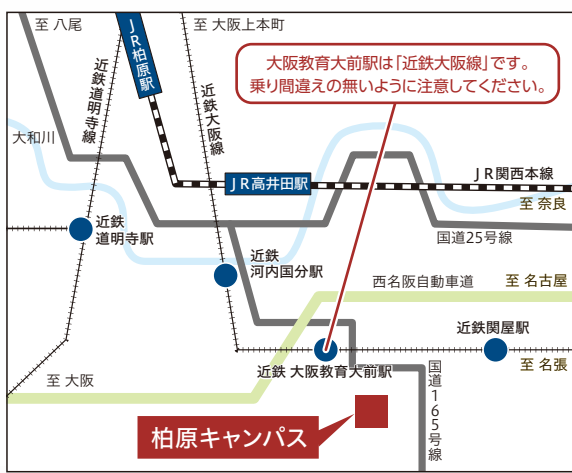
柏原キャンパス

※下図では乗り換えに要する時間は記載していません。



大阪上本町駅から
大阪教育大前駅まで近鉄電車で**23分**

JR大阪環状線鶴橋駅から
大阪教育大前駅までなら**19分**



天王寺キャンパス

※下図では乗り換えに要する時間は記載していません。



大阪市内中心地 天王寺駅から約600m (寺田町駅から350m)





国立大学法人

大阪教育大学

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/>

学務部入試課

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1
TEL 072-978-3323